

同位体化学的手法に基づく新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性復元

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Gakuhari, Takashi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00059966

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



[◀ Back to previous page](#)

同位体化学的手法に基づく新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性復元

Publicly

Project Area	Rice Farming and Chinese Civilization : Renovation of Integrated Studies of Rice-based Civilizations.	All ▾
Project/Area Number	16H00743	
Research Category	Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas (Research in a proposed research area)	
Allocation Type	Single-year Grants	
Review Section	Humanities and Social Sciences	
Research Institution	Kanazawa University	
Principal Investigator	覚張 隆史 金沢大学, 国際文化資源学研究中心, 特任助教 (70749530)	
Project Period (FY)	2016-04-01 – 2018-03-31	
Project Status	Completed (Fiscal Year 2017)	
Budget Amount *help	¥3,900,000 (Direct Cost: ¥3,000,000, Indirect Cost: ¥900,000) Fiscal Year 2017: ¥1,950,000 (Direct Cost: ¥1,500,000, Indirect Cost: ¥450,000) Fiscal Year 2016: ¥1,950,000 (Direct Cost: ¥1,500,000, Indirect Cost: ¥450,000)	
Keywords	ヒト / ストロンチウム同位体比 / 移入 / 中国新石器 / 長江下流域 / 文化財科学 / 同位体分析 / ヒトの移動 / 新石器時代 / 移民 / ストロンチウム同位体分析 / 歯エナメル質 / 人骨 / 稲作 / ストロンチウム同位体 / 同位体生態学	
Outline of Annual Research Achievements	本年度は、広富林遺跡出土人骨69点、良渚遺跡出土人骨20点、田螺山遺跡出土人骨15点、河姆渡遺跡出土人骨5点から歯エナメル質粉末を採取し、ストロンチウム同位体比に基づいた移入者の識別を試みた。昨年度では、広富林の良渚文化期及びスワク文化期で女性のみが移入者であることが示されてきたが、場所が大きく異なるものの良渚遺跡の良渚文化期でも女性のみが移入個体であった。一方、同一地質帯であるが、時代が古い田螺山・河姆渡は男女ともに移入個体と評価される個体は検出されなかった。この様に、約5000年以上前の女性が選択的に移入していたという科学的なデータに基づいた証拠は、世界においても最古の事例と言え、極めて重要な発見と言える。さらに、歯エナメル質の酸素・炭素同位体比を測定し、酸素同位体比が極めて低く、黄河以北の文化圏から直接的にヒトが移入してきている可能性が示された。この低い酸素同位体比を示す個体は、炭素同位体比が非常に重く、C4植物を主食とする文化圏の人々が持つ同位体比の範囲に収まった。中国において主食として利用されているC4植物として雑穀類のアワが有名である。ストロンチウム・酸素・炭素同位体比の結果は、遠距離地域出身の人が、直接的に長江下流域に移動し、移動した地で亡くなったというライフヒストリーを表している。従来の考古学では、物の流れでは直接的に遠方からの移入を示すことができていなかったが、直接的にヒトの長距離移動を復元した例は、東アジアにおいて本研究が初出となった。これらの結果は、日本人類学会及び文化財科学会で学会発表し、両学会発表賞を得た。現在、海外学術誌へ投稿準備を進めている。	
Research Progress Status	29年度が最終年度であるため、記入しない。	
Strategy for Future Research Activity	29年度が最終年度であるため、記入しない。	

Report (2 results)

2017 Annual Research Report

2016 Annual Research Report

Research Products (5 results)

	All	2017	Other
	All	Int'l Joint Research	Presentation
[Int'l Joint Research] 浙江省考古研究院/上海博物館/河姆渡博物館(中国)			▼
[Int'l Joint Research] 浙江省文物考古研究所/上海博物館(中華人民共和国)			▼
[Presentation] 新石器時代の長江下流域における移民率の評価		2017	▼
[Presentation] 新石器時代の長江下流域における移民率の評価		2017	▼
[Presentation] 新石器時代の長江下流域におけるヒトの移動性に関する研究		2017	▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PUBLICLY-16H00743/>

